

2．気象条件と発生時刻

火災の被害想定に際してはどのような前提条件を設定するかが重要である。本調査では、季節、時間帯、風の3条件を組み合わせて、日中において地震による火災が1日のうちで平均的な条件として<夏、昼>と、地震による出火が最も多くなる条件として<冬、夕>の2つのケースを想定した。気象条件は県内各地の過去10年間の気象データを参照して設定を行った。これらの前提条件の詳細について表2-2-1に示す。

なお、人的被害については、早朝4時（火災なし、建物被害のみ）についても検討を行った。これは、住民全てが就寝していると仮定した場合の人的被害の想定を行うものである。

表2-2-1 火災の予測に用いる前提条件

名称	夏、昼	冬、夕
季節	夏（8月）	冬（2月）
曜日	平日	平日
時刻	午後0時頃	午後6時頃
天候	晴れ	晴れ
湿度	75%	60%
風向	南南東	西北西
風速	毎秒4.5m	毎秒6m

3．想定単位

解析・評価を行う単位は、評価対象により市町村ごと、500mメッシュ（第3次標準地域メッシュを4等分したもの）ごと、対象ごとに評価する。なお、火災の延焼の想定では、建物の分布や空き地の分布などをより詳細に設定するために500mメッシュをさらに4分割した250mメッシュで検討を行った。